

照國公（島津斉彬公） 指宿八景御詠のご紹介

NPO法人 縄文の森をつくろう会 (info@jomon-no-mori.com)



島津家二十八代斉彬公は指宿との縁が深いお殿様で、殿様湯のある二月田の別墅（別邸）をしばしば訪ねられ、放鷹や浜辺での漁を見物して楽しまれたという記録が残っています。

安政五（一八五八）年に滞在された際の指宿は深刻な水不足に見舞われていましたが、民を思いやられた公は利水環境の改善を郡奉行に命ぜられ、九七本の井戸が掘られました。木之下にある安政の堀井碑は、その恩に感謝して建てられたものです。

当初の堀井碑の痛みが激しくなったため、昭和一二（一九三七）年に新しい碑が設けられ、工事を指揮した郡奉行見習東郷実友の実子、東郷平八郎元帥の添書も加えられています。この時に、斉彬公の愛された指宿の景勝が読まれた以下の指宿八景八首も刻まれました。



照國公指宿八景御詠の刻まれた昭和の堀井碑（手前）と安政の堀井碑（奥）



尾掛秋月
船つけてうたいし
からの面影も
見ゆる尾掛の
秋の夜の月

宮ヶ浜捍海隄から尾掛・知林ヶ島方面

画像の前景の捍海隄（かんかいてい）は、島津家二十七代斉興の時代の港湾整備に伴い建設された防波堤。指宿小学校の校庭に、完成を記念する碑も残されています。

舟を浮かべての歌会でしようか。尾掛の月に偲ばれた「から（唐）の面影」は、瀟湘（しょうしゅう）八景のうち洞庭湖にかかる「洞庭秋月」と思われます。

魚見岳から知林ヶ島に向かって吹き降ろす山風が霧を払い、田良浜にひろがる松林の緑が映える様子が詠われています。

田良浜には、二俣川から二月田別墅までの約5・5キロを結ぶ水道を敷設した黒岩家の屋敷がありました。水道の石樋の遺構は殿様湯に残されています。



多羅噴嵐
つききりも嵐に噴れて
はるばると
緑さやけき多羅の松原

田良浜から魚見岳・知林ヶ島方面



二月田別墅跡の湯殿遺構と湯権現

夜の里の佇まいの寂しさを、独り立つ松の影に降る雨が一層際立たせています。二月田別墅跡にある昭和十五（一九四〇）年の碑には、「庭前二残ル泉石老松」とあり、おそらくはそこで詠まれたものですが、既にその松もありません。

天保二（一八三一）年に別墅と共に長井温泉から移設された湯権現には、調所広郷が手水鉢を奉納しています。



瀧口の船溜り

南浦歸帆
おひて吹く
風にまかせて歸る也
いづれの舟か幸の多かる

南浦は現在の指宿港でしようから、漁にも風にも恵まれて躍る帰帆を見守る領主のお姿です。
画像は指宿港から東に離れた船溜り。二月田逗留の際には、ここに着けた船から馬に曳かれた小舟で二反田川を上られました。船溜りから齊彬公との縁も深かった湊の濱崎家までは水路で結ばれ、その遺構も残っています。詠まれた「幸」が島津家御用の積荷では：と考えるのは不謹慎でしようか。



御領ヶ池

田面落雁
秋毎に
同じ田つらに来る雁は
己がとこをや
定めおくらむ

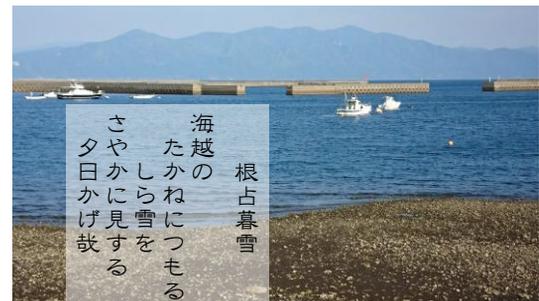
前に指宿に来た折にもあのつがいはあの場所には：。かつての指宿には汐入と呼ばれる湾入があり、二反田川沿いは天保期の塩田・新田開発で埋立てられた土地です。公がご覧になったのも新しく拓かれた水田の景色だったかもしれせん。
画像は新道敷設に伴い人造湖となった湿地帯で、公の時代には存在しませんが、夕日の美しい絶好の野鳥観察ポイントです。ただ、多くの地方同様、指宿でも雁を見かけることはなくなりしました。



指宿神社本殿

新宮晩鐘
くれかねの
ひびきもたへて
いとどしく
神さびにける
もりのかげかな

廃仏毀釈運動により失われるまで、指宿神社（新宮九社大明神）の境内にも鐘楼が設けられていました。その暮六つが響いた後の静寂の中で御詠。神々しさを感ずる杜の大楠群は、現在、鹿児島県指定天然記念物です。公の時代には、二月田別墅からも望むことができたのではないでしようか。
画像右下に見える手水鉢は弘化四（一八四七）年に調所広郷が奉納したものです。



大牟礼からの大隅半島

根占暮雪
海越の
たかねにつもる
しら雪を
さやかに見する
夕日かげ故

根占は大隅半島の錦江町から南大隅町にかけての地域。薩摩半島側とは地形、地質が異なる山並みを覆う雪に夕日が映える様を対岸から眺めることのできる幸せは指宿ならではの、山川八景の一つにも「邊多暮雪」が数えられています。邊多は南大隅町根占辺田です。
なかなか捉える機会に恵まれることのない景観で、画像にも雪はありませんが、瀧口と指宿港の間からのものですから、「南浦歸帆」の参考画像ともなっています。



湊川橋

鼓橋夕照
夕白さす
つづみの橋をゆく人は
おとなしとて
さやけかりけり

二月田別墅に近い、頼娃街道が二反田川を渡るところに、肥後の名工岩永三五郎による二月田橋が架けられていました。その橋の、人影もまばらとなる夕刻の佇まいを詠まれた一首でしようか。
二月田橋は昭和に入っで架け替えられましたが、岩永三五郎の橋の一つが宮ヶ浜に残されています。交通手段の変化に伴い上部が改装されたものの、かつては「太鼓橋（てこばし）」と呼ばれていた「鼓の橋」です。